



許状

曹洞宗

善光寺住職

正教師黒田武志

可緋恩衣

昭和五十九年九月五日

管長秦慧玉

## 挨拶

このたび緋ひの恩衣おんえを着用することのできる榮譽に浴しました。まことに有難く、身に余る光榮であります。まずもって御開山棟庵白純大和尚の御真前、開基成寿院殿満徳賢道禪大居士、福壽院殿賢徳妙愛禪清大姉の御霊前に御報告申し上げます。

大本山総持寺を開かれました瑩山けいざん禪師は、「瑩山今生の仏法修行は、この檀越だんごつの信心によつて成就す」と述べておられます。私はこのお言葉にいま深い感銘を受けております。と申しますのは、私が緋恩衣の特許を得たのは、お檀家の皆様方のご信心のおかげと肝に銘じているわけでありませう。心から厚く御礼申し上げますとともに、これを契機として更に一段の精進を誓うものであります。

おかげさまで、昨年九月、さいわいにも長男武徳たけのりの得度式を挙げることができましたので、今後は、善光寺の後継者として皆様の御期待にこたえ得るよう育成してゆく所存でございます。さらにまた、徒弟桐元大智が去る九月、両大本山に拝登して瑞世の式を挙げ、和尚の位に進むことができたので、いよいよ陣容がととのつてまいりました。何卒、今後ともよろしく御支援御鞭撻のほどお願い申し上げます。

昭和五十九年十一月吉日

黒田大圓(武志)



開 山 模庵白純大和尚(栃木県大田原市光真寺36世中興)



開 基 成寿院殿満徳賢道禅大居士(K.K.ナリス化粧品先代社長 村岡満義)  
福寿院殿賢徳妙愛禅清大姉(K.K.ナリス化粧品先代社長夫人 村岡愛)

# 恩衣とは

このたび、当山の方丈様が緋の恩衣を着用する資格を得られましたことは、まことにめでたいことであります。

宗門では、重要な法要の導師をとめるにはそれ相應の資格がなくてはなりません。

「恩衣」は、「資格衣」または「道具衣」とも申しまして、導師となる資格を具備した人だけが着用できるものでありまして、緋衣・黄衣・赤紫衣があり、緋衣は四十五歳以上で、すぐれた経歴のある人にだけその資格が付与されるものであります。四十代でこれを得るのは中々むずかしく、五十歳を過ぎてその特許を与えられるのが一般であります。

方丈様は素晴らしい経歴を持っておられますので、四十六歳にしてその榮譽に浴したのであります。

方丈様の経歴は、お檀家の皆様方にも知っていただくべきことですので、経歴書と、佐藤俊明老師の筆に成る「ゼロからの出発——開創十五周年の軌跡——」を次に転載します。

「ゼロからの出発」は、『曹洞宗実践叢書』第五巻に収録されているものの転載であります。

また、方丈様が、去る七月二十一日、横浜市立工業高等学校で講演された「大なる哉こころ」の抜粋を載せました。方丈様のケタはずれの行跡をお読み取りください。